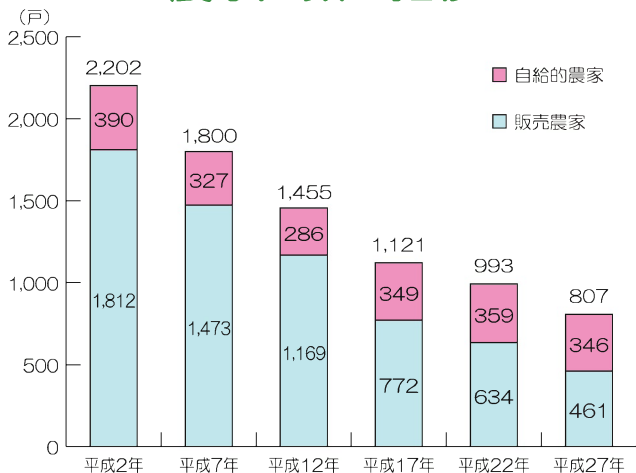




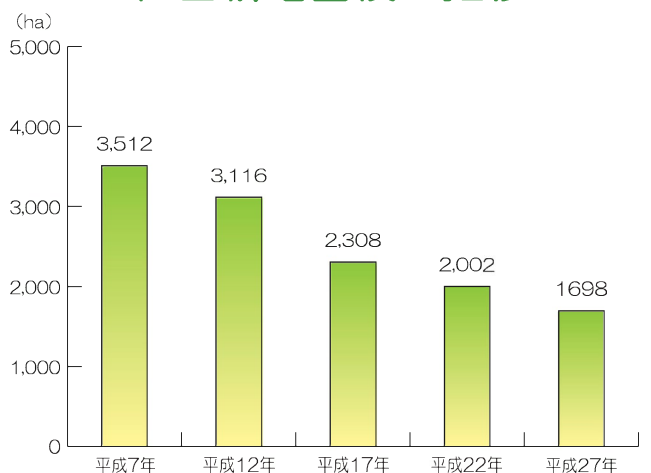
産業として 都市の環境として 市民に価値のあるものとして

札幌市の農業は、かつては寒冷地農業の技術拠点として、北海道農業の発展に大きく貢献してきました。しかし、時代や社会経済の変化、都市化が進む中で、担い手の高齢化や後継者難、農産物価格の低迷などを受けて、昭和30年代をピークに農家戸数、経営耕地面積とも年々減少するなど、厳しい状況が続いています。

農家戸数の推移



経営耕地面積の推移



(農林業センサス調査)



さっぽろ農業を 次世代に引き継ぐために

一方では、市民への新鮮安全な農産物の供給を始め、市街地周辺における緑地保全、市民の憩いや生きがいの場、教育の場など、農業が持つ多面的な機能が見直されるとともに、市民の「食」や「農」に対する関心が高まっています。

市民農業講座「さっぽろ農学校」は都市型農業を引き継ぐ“新たな農業の担い手”や農業体験の指導者や農業ボランティアなどとして農業を支える“農業応援団”の育成を目的として平成13年にスタートしました。

家庭菜園や市民農園をより楽しむために作物づくりの知識とコツを講義形式により学ぶ「入門コース」と、農業にかかわっていくのに必要な栽培知識と技術をほ場での実習を中心に学ぶ「専修コース」を開講しています。